

Vol.3 ▶ March.2010

Surgeon's Club

東北大学病院 肝胆膵外科・胃腸外科

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 医局/TEL:022-717-7205 FAX:022-717-7209 URL/http://www.surg1.med.tohoku.ac.jp/



夢への挑戦

生体調節外科学分野（胃腸外科）教授

佐々木 巖

Surgeon's Clubが第3号を迎えた。大学医局の研究・教育・診療に関わる情報をより多くの若い人に伝え、新しい工夫を引き出したいと思う。外科を取り巻く環境は、一向に改善の明かりが見えない状況だが、それでもやる気のある若手で外科を選択する人が少しずつ増えているように思う。何を根拠に…と思うが、確かに医局の若者は教授を相手に自分の意見を堂々と主張するようになっている。自分の考えが無いと、こうは行かない。「本当に外科医は不足しているのか…」と思い、外科医一人あたりの手術件数を調べると、欧米に比べて寧ろ少ない。外科医がもっと手術ができて若い医師が育つ環境作りを協力して取り組むことが必要であることは明らかである。福沢諭吉は明治維新を迎え、我が国が欧米諸国と対等な国に成長する為に、「一身一国」として国民一人一人の自主独立の気概と自覚を啓発している。全体を構成する一人一人の意識革命が重要であり、そのような人間達が一丸となった時のパワーの凄さは様々な社会で発揮される。以前、大阪で外科学学会があった時に緒方洪庵塾を訪ねた事があった。ある生命保険会社の裏手に我が国の近代医学の目覚めが大きな史跡となって佇んでおり、現在は大阪大学が管理している。資料を見ると、緒方洪庵に教えを乞う若者が全国から集まったという。適塾の壁には数多くの若き志士達が出身藩ごとにわかるような全国図が展示されている。また、洪庵塾の2階の広い部屋に中央柱があり、勉学に励む若者達はその溢れるエネルギーをぶつけ合った刀痕が生々しく残されている。大村益次郎や福沢諭吉もその一人であった。そして、彼らも確かに手に取って勉強したと思われる書物が展示してあった。近代外科学の父と言われる Androise Pareが16世紀に書いた「大外科」のオランダ語訳がその書物だ。「大外科」は16世紀当時から時代を経ながら様々な言語に訳されて世界中で多くの外科医が学んだとされる。

若い諸君のエネルギーは社会を変える大きな力となる。我々は現状に満足しない更に良い外科治療をしたいと思う中で、いろんな困難が我々の目に横たわっている。しかし、嘆いてばかりでは何も解決しない。我々外科医は患者に一番近いところに居る医師である。たとえ患者の苦痛の全てを無くする事が出来なくても、少しでも克服したい、救いたいという熱い夢と気概をもち挑戦し続け、勉学し工夫を引き出す集団でありたいと願うものである。



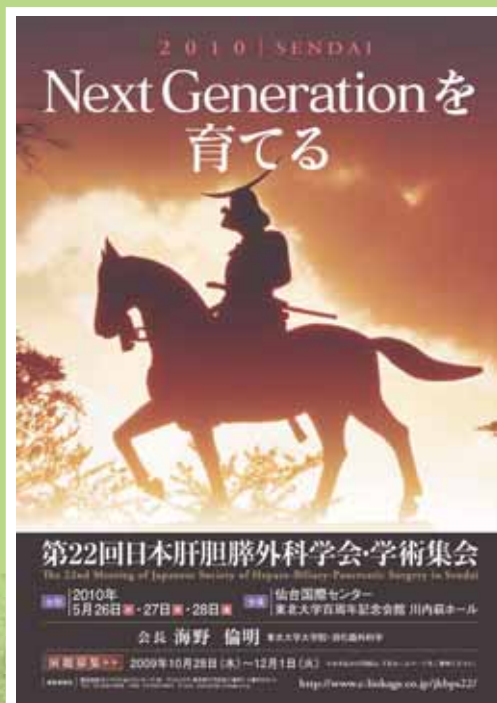
第22回日本肝胆膵外科学会を 開催するにあたって

消化器外科学分野（肝胆膵外科）教授

海野 倫明

2010年5月26日から28日の3日間、東北大学百周年記念会館萩ホール・仙台国際センターにおいて、第22回日本肝胆膵外科学会・学術集会の当番会長を拝命いたしました。今回の学会のテーマは「Next Generationを育てる」といたしました。日本肝胆膵外科学会は肝胆膵外科手術の高度技能医制度を発足させ、2011年には初めての高度技能医が誕生する予定です。高度技能医は、肝胆膵の高難度手術50例以上を修練施設で行い、うち1例のビデオを提出、審査・認定されるもので、外科医の技術を評価しようとするものです。とかく最後のビデオ審査が注目されていますが、本制度の骨子は修練施設で行われる50例の手術での形成的評価であると考えています。日々の臨床において、高度技能医を目指す若手に対して、どのような技術を習得させるか（手のトレーニング）、どのような思考回路を有する医師とするか（頭のトレーニング）を、我々は考えていかなければなりません。また彼らに夢と希望を与え、肝胆膵外科を志す医師を増やすことは学会の切実な願いでもあります。そこで、「Next Generation」すなわち次世代の肝胆膵外科高度技能医をどう育てるのか、どうあるべきかを、本学会でじっくりと議論していきたいと考えています。

日本肝胆膵外科学会は学会員が約2000名の大規模学会となり、仙台での学術集会は1000題の発表を予定しています。1500名以上の会員が仙台に集まりますので、学術的なもの以外に仙台の街と文化・食事も堪能してもらいたいと考えています。はじめての全国学会主催で、不慣れで不十分のことも多いかと思いますが、医局をあげて準備しておりますので、皆さん奮ってご参加下さい。



臨床と研究のトピックス

TOPICS



WT1ペプチドワクチン治療

肝胆膵外科 准教授

江川 新一

膵・胆道癌の治療はgemcitabine, TS-1の出現によって大きく変わり、進行癌、切除術後の補助化学療法、さらに肝胆膵外科では切除可能な膵・胆道癌に対する術前治療の臨床試験を推進するまでになっています。しかし、標準的な化学療法が無効な場合には、新たな抗癌剤や分子生物学的治療・免疫治療に活路を見出さざるを得ません。Wilms' Tumorのがん遺伝子として発見されたWT1を標的とするペプチドワクチンは大阪大学で開発され、白血病、肺癌、乳癌での臨床効果も期待されていま

す。膵癌での発現も確認されており、東北大学では倫理委員会の承認と薬剤部の協力を得て、『化学療法抵抗性の進行・再発膵癌に対するWT1ペプチドを用いた免疫治療パイロット研究』を開始しました。HLA-A2402(日本人の60%)の患者さんのみに適応できます。膵・胆道癌という難治癌に対する免疫治療の糸口として研究を進めています。



内視鏡外科の実際と展望

胃腸外科 講師

内藤 剛

1980年代後半に腹腔鏡下胆嚢摘出術が施行されて以来、内視鏡手術の発展の早さは外科学史100余年の中でも未曾有の大事件であります。悪性疾患に対する適応拡大では今や進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術は一般的になりつつありますし、胃癌においてもその有用性は広く認められてきています。また肝、膵など実質臓器に対する腹腔鏡下手術も普及してきており、それらを議論する研究会の設立も進んでいます。また最近では単孔式腹腔鏡下手術などの新しい手技が注目され、胆嚢摘出

術や虫垂切除術に応用されています。10月より先任の仙台オープン病院より帰局し、大学病院の中での内視鏡外科の更なる発展を目指していこうと考えていますが、我々としてはしっかりとしたデータに基づいて内視鏡手術の利点を検証し適応を拡大していくこと、また今後の内視鏡外科を担っていく人材の育成に重点をおいて、大学の中でのシステム作りを目指していこうと考えています。今後ともよろしく申し上げます。



GISTのお話

胃腸外科 助教
安藤 敏典

GISTに対する分子標的治療薬イマチニブが開発後、さまざまな臨床試験が行なわれている。術後補助療法としてのZ9001試験では、イマチニブ投与群は、手術単独に比較しRFSが有意に延長した。切除不能・転移性GIST患者を対象とするB2222試験では、奏効率68.5%、disease control rate(CR+PR+SD)83.7%、OS 57ヵ月で、CR・PR患者とSD患者ではOSに差がなかった。また、イマチニブでSD以上の効果が得られた転移性GIST患者への投与中断の影響を検討したBFR14試験では、イマチニブ投与から1年後および3年後に継続群と中断群の比

較において、無増悪生存期間は時期に関係なく中断群が著明に低い結果となった。さらにイマチニブ耐性GISTに対するEORTC62005試験ではイマチニブ400mg/日でPDとなった場合、800mg/日に増量した結果35%前後でdisease controlが得られた。これらから、今後は high risk症例に対する術後補助療法やSD患者・長期有効患者への投与継続が推奨され、また国内未承認である800mg/日への増量が検討されることと思う。現在イマチニブ耐性GISTに対して、ガイドラインではスニチニブが推奨されています。診療のご参考にして下さい。

外来スタッフ紹介

肝胆膵外科・胃腸外科外来スタッフは現在、看護師2名、クラーク1名です。看護師の佐佐木さん(写真右)・伊藤さん(写真左)には、いつも再来患者さんの様子を聞いて状態のあまりよくない方を外来ベッドに誘導して頂いたり、術後初来院の方に自宅での調子を聞いてカルテにメモして頂いたり、細やかな配慮を下さっています。また、クラークの内海さん(写真中央)は優れた事務処理能力と細やかな配慮で、「はい、外来クラーク内海です」のお言葉に皆、癒されております。

化学療法患者の採血、状態の悪い方の点滴、その他ありとあらゆる多忙な業務を必要とする当科外来にあって、この3人の方々あっての我々であることを忘れずに、「外来の具合の悪い方のご相談なんですけど…」という呼びの声には快く対応して差し上げましょう。(文責:乙供)



▲ 左:伊藤さん、中央:内海さん、右:佐佐木さん

医局員の生活(肝胆膵外科編)

肝胆膵外科 助教
森川 孝則



楽天イーグルスのリーグ準優勝、そしてCS出場に沸いた今年の仙台ですが、そのためか、最近野球で遊んでいる子供たちを良く目にするようになってきました。近年サッカーに押され気味だった野球も、徐々にその人気を盛り返しているといったところでしょうか。一方、我が旧第一外科野球部に話を移しますと、今年は教室員会野球および六外科野球ともに一回戦敗退という、近年稀にみる散々な成績でした。私がネーベンだった頃の強さが嘘の様です。入局者および野球経験者の減少、スタッフの高齢化など原因は様々ですが、医局・臨床業務の多忙化が一番影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

さて、野球部復活のためには投手力強化が重要であり、そのためには私が適任と、現在ピッチャーへのコンバートを計画中です。日ハム・ダルビッシュを目標として先日からトレーニングを開始してはおりますが、ジョギングを始めると膝を痛くし、いい汗をかくとすぐ飲んでしまうという、ダルビッシュというより江夏豊のような現在の体型をいかに克服するかが問題です。来年は野球経験者が入局するとこの事で少し安心していますが、王国再興のためには個々人の能力アップ以外にも、両教授の温かい目と、楽しい飲み会、そして美女の応援が必要です。皆さんご協力よろしくお願いします。

医局員の生活(胃腸外科編)

胃腸外科 助教
矢崎 伸樹



早いもので私が帰局し1年がたとうとしております。関連病院にいる間、診療体制の変更、病棟の移転等々いろいろなことがありました。今まで経験したことのない症例、とてもきれいな病棟と、ネーベン時代、新聞紙を広げて回診をしていた当時と比べると、いろいろな意味で様変わりしておりました。これからは外来棟の移転、4月からはオープン病院から戻られた内藤剛先生を交えてのラパロチームの発足、目まぐるしく診療面での変更が行われる予定です。今年度も多数の入局者、帰局される先生も含め、医局は新陳代謝が繰り返されます。

余談となりますが医局バスケット部は今年も教室員会の大会で準優勝でした。何分にもメンバーの高齢化が危惧されておりますが、月一の練習をもうけたり、大学院生、看護師さんの参加もあり、若い力も育ってきております。日々の練習、学生さんの勧誘も積極的に行っているところです。

最後に、私個人としましては、日々の業務に忙殺されることなく、いろいろな面でレベルアップが図ればと、また、もう少し家族と過ごす時間を作ればと考えております。

丙辰会新年会

医局丙辰会係 主任 三浦 康

平成22年在仙丙辰会新年会は、1月8日(金)19時から、例年どおり江陽グランドホテルにて開催いたしました。今年度の幹事は今野喜郎先生と酒井謙次先生であり、出席者数は65名、今回は佐藤壽雄名誉会長と佐々木蔵会長はご欠席でした。酒井先生に司会進行していただき、海野倫明副会長、松野正紀名誉会長のご挨拶、さらに宮城県医師会会長の伊東潤造先生に宮城県の医療の現状を含めたご挨拶をいただきました。アトラクションは今野先生のご尽力で川野目亭南天さんの東方落語を企画、その後に鏡開きを行い、末武保政先生に乾杯の音頭をお願いしました。歓談の後、安藤祐介先生、大内将弘先生、今岡洋一先生にご挨拶をいただき、最後は千葉純治先生の音頭で万歳三唱となりました。



国内留学

胃腸外科 助教 木内 誠

両教授のご高配により平成21年4月から10月までの間、東京にある四谷メディカルキューブで臨床経験を積む機会を与えていただきました。ここでは病棟は宿泊室と呼ばれ、廊下はじゅうたん張り、部屋は全室個室、食事と同じビルに入っているフランス料理店より出されております。この食事は我々が当直するときに検食の名目で食べることができ密かな楽しみでもありました。手術に関しては外科の手術のほとんどが腹腔鏡手術で、特に肥満手術を多く行っており、通常の腹腔鏡手術のみならず

肥満手術に関する経験も積むことができました。腹腔鏡下肥満手術では鏡視下縫合結紮を行なう機会が多いため、特に縫合結紮のトレーニングを重点的に行なってきました。半年という短い期間ではありましたが密度の濃い充実した研修を行なうことができましたと思います。今後は今回経験してきた技術を少しでも実際の臨床において発揮できるように努力してゆく所存であります。

平成21年度

博士号取得者 および論文一覧

益田 邦弘

「マウス胎仔線維芽細胞におけるFbxw7による細胞周期抑制因子の制御」

川口 桂

「膵癌のゲムシタピン感受性予測のためのタンパク質発現プロファイルとゲムシタピン獲得耐性機構の検討」

佐藤 学

「胆汁・膵液の流入部位変更が消化管運動・消化管ホルモンに与える影響」

編集後記

佐々木教授の御指示により創刊されました医局機関紙「Surgeon's club」も第3号となりました。なんとか半年に一度の発行を、と思っておりますが、多忙な臨床・研究に追われる先生方に原稿を書いて頂き、督促し、回収するのは大変な作業です。

しかし各方面の先生方から意外と評判がよい、というお話もお聞きすると投げ捨てるわけにはいきません。徐々に後期研修を終えた若い先生方が医局へお戻りですので、お手伝い頂くよう内偵を進めているところです。

肝胆膵外科 助教 乙供 茂

編集・発行

東北大学病院 肝胆膵外科・胃腸外科

医学系研究科 外科病態学講座 消化器外科学分野・生体調節外科学分野
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

肝胆膵外科・胃腸外科外来 / TEL: 022-717-7740 病棟: 東8階病棟 / 022-717-7626 東13階病棟 / 022-717-7591
医局 / TEL: 022-717-7205 FAX: 022-717-7209 ホームページアドレス / <http://www.sug1.med.tohoku.ac.jp/>